

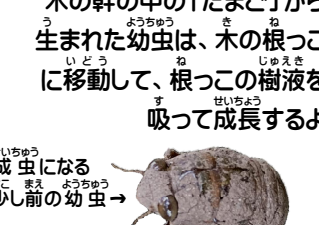
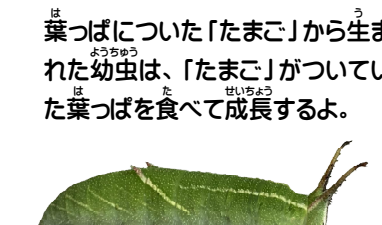
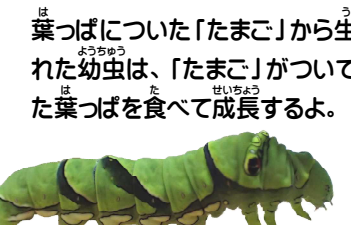
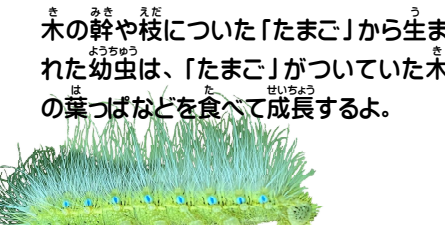
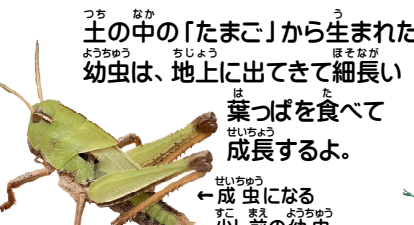
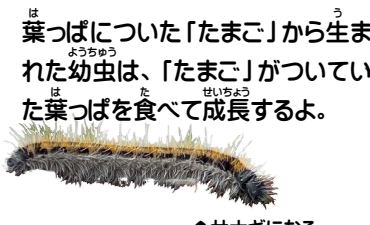
あさひやま どうぶつえんだより

だい
137
ごう

もんだい 大きくなったら何になる？
幼虫からスタートして、あみだをたどっていくと、こたえ（成虫）にたどりつくよ！

幼虫いろいろ

「幼虫」とは、読んで字のごとく、幼い虫。「たまご」からうまれて、脱皮をくりかえして成長し成虫になるまで（サナギの期間がある場合はサナギになる前まで）の昆虫の成長過程のこと。毛がたくさんはえていたり、吸盤みたいなのがついてたり、長い脚がついてたり、緑色だったり、茶色だったりなどなど…昆虫の種類によって、形や色はさまざまだよ。



A ↑ サナギになる少し前の幼虫
【A】生まれてからサナギになる直前まで色はあまり変わらないけど、脱皮をくりかえして大きく成長するよ。
【G】生まれたばかりは、1～2ミリで半透明の白っぽい体をしているよ。木の幹でうまれた幼虫は、木の根に移動して樹液を吸うよ。

B ↑ サナギになる少し前の幼虫
【B】生まれたばかりのときはうすい黄色で、だんだん茶色くなって枯れ葉に擬態。枯れ葉の中で集団で越冬し、春になると葉っぱから出てきて脱皮して、オレンジ色になって毛もふえるよ。

C ↑ サナギになる少し前の幼虫
【C】生まれたばかりでも成虫を小さくしたような形。脱皮をくりかえして成長し、翅のびてくるよ。
※擬態＝身を守るために何かの「ふり」をすること。葉や枝、鳥の糞になりきったりなどいろいろある。

D ↑ サナギになる少し前の幼虫
【D】生まれたばかりのときは全身が黒いけど、1回目の脱皮後からは白い部分が増えて鳥の糞に擬態。サナギになる直前は目玉模様があり、ヘビに擬態するよ。

E ↑ サナギになる少し前の幼虫
【E】生まれたばかりのときは全身が黒く、大きくなるにつれて黄緑色の部分が増えてきて、毛の量も増えるよ。

F ↑ サナギになる少し前の幼虫
【F】生まれたばかりのときは茶色で木の幹や枝に擬態。茶色で越冬し、春になると脱皮して黄緑色に。こんどは葉っぱに擬態するよ。

【E】の「サナギ」。木の枝などとサナギを帯糸で支える形態。夏に生まれた幼虫は「サナギ」で越冬し春に羽化するよ。

【G】サナギにならない。大きく成長した幼虫が脱皮して翅をのびして成虫になるよ。

【D】の「サナギ」。幼虫はまず網目になった「まゆ」を作り、その中で「サナギ」になるよ。「まゆ」はとても丈夫な糸で作られているよ。

【C】サナギにならない。大きく成長した幼虫が脱皮して翅をのびして成虫になるよ。

【F】の「サナギ」。幼虫が食べるヤナギの葉っぱそっくりで、お尻の先からぶら下がる形態。

【A】の「サナギ」。土の中でサナギになり、羽化して地上に出てくるよ。

